

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 27 日作成)

委員会名	PC 耐震設計小委員会	主 査 名：丸田 誠
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (プレストレストコンクリート構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：浜原正行
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	プレストレストコンクリート(PC)構造は、大地震に対しても残留変形の少ない良好な性状を示すが、耐震設計に対して万全とは言えない。特に現在、終局強度設計を行っているが、性能設計に向けた検討が必要なるため、本委員会で検討を行った。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：丸田 誠(鹿島建設) 幹事：福井 剛(ピーエス三菱) 委員：浜原正行(日大)・是永健好(大成建設)・加藤博人(建研)・河野 進(京大)・小室 努(大成建設)・島崎和司(神奈川大)・中塚 信(阪大)・西山峰広(京大)・深井悟(日建設計)・出口 兼(和歌山県庁)・内山執樹(オリエンタル建設)・高橋元美(鹿島建設)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	180,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回(8/18、出席者：10 名) 第 2 回(10/29、出席者：8 名) 第 3 回(1/29、出席者：8 名)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) (1) 内外の PC 建物およびこれに関連する規基準に対する検討を行った。 (2) PC を対象とした各種復元力特性モデルに対する検討を行った。 (3) PC 骨組全体と構成部材の履歴特性の関係を明らかにし、構成部材の履歴特性から骨組全体の履歴特性を推定する方法を示した。 (4) PC 建物の耐震設計に対する Ds 法、限界耐力法等の設計手法の適用法について検討を加えた。 (5) 性能設計に向けて各種限界状態との比較案を作成した。 委員会 HP アドレス： HP 公開は可
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の目的は、ほぼ達成できた。 来年度からは、さらに性能設計に向けて PC 耐震規準を見直し、時期 PC 規準に繁栄させるべく活動を行っていく。
その他評価すべき事項	